

JP A-Sho52-93930

"Method for discharging electrolyte of a wet-type
reserve lead battery"

2. Claim

A method for discharging an electrolyte of a wet-type reserve lead battery, comprising discharging the electrolyte under a reduced pressure after charging the lead battery.

⑯日本国特許庁

⑪特許出願公開

公開特許公報

昭52—93930

⑤Int. Cl²
H 01 M 4/23

識別記号

⑥日本分類
57 C 17

厅内整理番号
7239—51

⑩公開 昭和52年(1977)8月8日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全2頁)

④湿式即用鉛蓄電池における電解液排出方法

②特 願 昭51—9530

②出 願 昭51(1976)1月31日

②發明者 下田雅一

東京都新宿区西新宿二丁目1番
1号新神戸電機株式会社内

⑦發明者 星野寿

東京都新宿区西新宿二丁目1番
1号新神戸電機株式会社内

⑦出願人 新神戸電機株式会社

東京都新宿区西新宿二丁目1番
1号

⑧代理人 勝木式朗

明細書
1. 発明の名称 湿式即用鉛蓄電池における電解液排出方法

2. 特許請求の範囲

鉛蓄電池の充電後減圧状態で電解液を排出せしめることを特徴とする湿式即用鉛蓄電池における電解液排出方法。

3. 説明の詳細な説明

本発明は、充電後電解液を排出せしめて保存を行なう湿式即用鉛蓄電池における電解液排出方法に関するものである。

極板を製造する段階で充電処理を施し乾燥した充電済み極板を組み込んだ鉛蓄電池は、電解液を注入すれば直ちに使用可能な状態となり、一般に乾式即用鉛蓄電池といわれている。これに対して、極板を電池に組み込んだ後充電処理を施し、充電後電解液を排出せしめて使用時に再び電解液を注入する鉛蓄電池を湿式即用鉛蓄電池といふ。

上記の湿式即用鉛蓄電池は、電解液を排出後

長期保存をする場合電解液が電池内に残存していると、自己放電を引き起して容量が減少する。したがって、長期に亘り保存する場合は、排液後電池内部に残存する電解液はできるだけ少ない方が良い。

従来の湿式即用鉛蓄電池においては、電解液の排出は、電池を転倒して行なっていたが、この方法では排液が充分でなく約50パーセント程度しか排液が行なえなかつたので、长期保存を行なう場合自己放電による即用性能の劣化が著しかつた。

本発明は、気圧110乃至200mmHgの減圧状態で電解液を排出することによって電池内部に残存する電解液をより少なくし、保存中の自己放電をできるだけ抑制して保存後の即用性能の劣化を防止しようとするものである。

本件により排液を行なうと、電池内部に存在する空気や、充電時に発生した水蒸、酸蒸などの気体が、気圧の低下によって膨張して、転倒法では排液されずに電池内部に残存していた電

鏡板を押し出すので、電解液の排出を容易にし、
従来の転倒法に比べ数パーセント乃至10パー
セント多く電解液の排出が可能となる。

上述のように本発明は底座状態で転倒するな
どして電解液を排出するので、従来の転倒など
だけで排出した場合に比べ排出される電解液量
が増大し、保証中の自己放電の割合が少なくな
るので保証後の即用性能の劣化が抑制される。

特許出願人

新神戸電機株式会社

代表取締役 石垣 武三郎

代理人 鎌不式輔